

農作業特報

黒部市
黒部市農業技術会議

今年のコシヒカリ（5月13日田植）の幼穂形成期（幼穂長2mm）は、平年より2日程度遅い7月13日頃と見込まれます。今後は、生育状況や気象等に留意して、穂肥施用や病害虫防除を的確に行いましょう。

△コシヒカリの幼穂形成期頃の生育状況（黒部市生育調査12ヶ所平均）

	草丈 (cm)	莖数(本)		葉色	幼穂長 (mm)	幼穂 形成期
		株当たり	m ² 当たり			
R3年	63.0	25.5	515	4.1	-	(7月13日)
近年	69.7	24.3	483	4.0	1.9	7月11日

R3年: 7月6日調査
近年: 過去10年間の平均値

1 コシヒカリの穂肥 ~生育状況を見て慎重に施用~

【分施体系の場合（平地、5月中旬植え）】

時期	幼穂長	草丈	葉色	肥料名および施用量
7月21日頃	1.5cm	82cm以下	3.8	LP追肥38号 15kg/10a

※中山間地域や5月中旬以外の田植えの場合は、施用時期が異なります。

(1) ほ場によって生育の進み方が違いますので、**幼穂長(1.5cm)**を必ず確認して、施用しましょう。

幼穂長 1.5cm を確認する



(2) 穂肥施用時に草丈が長い(82cm以上) 場合や、葉色が濃い(3.8以上)場合は、施用を**3日程度遅らせ**ましょう。

株の中で一番長い草丈の莖を根元から抜き取る。ほ場毎に5株程度で幼穂の長さを確認する。

基肥一発肥料のほ場で、葉色が薄い場合は、追加穂肥を施用しましょう。また、追加穂肥に備えて肥料を準備しておきましょう。

【追加穂肥の目安】

出穂10~7日前(7/26~29頃)に葉色が4.2未満(壤土は、4.0未満)

直ちに追肥を!!

追肥3号
5~7 kg/10a

※遅くとも8/2頃までに施用しましょう。

2 出穂期までの水管理 ~適正な葉色へ誘導する~

幼穂形成期以降は、**飽水管理**（足跡に水が残る程度）を行い、水田が乾き過ぎないように注意しましょう。一方で、水を溜めっぱなしにするのも厳禁です。

熱中症予防のため、こまめな水分補給を行い、体調管理に注意しましょう。

3 病害虫防除

雑草地における斑点米カメムシ類の発生数は、過去10年間の平均の1.5倍となっています。

カメムシ類による斑点米の発生を防ぐため、品種や生育に応じて**適期防除**を徹底しましょう。**早生品種**は出穂が早いため、被害を受けやすいので、**必ず3回防除**を行って下さい。また畦畔雑草にもカメムシが生息しているので、畦畔にも薬剤がかかるように散布しましょう。散布間隔は7日間を目安とします。(10日以上あけない)

【基本防除の目安】

コシヒカリの防除日は今後の生育状況を見て、次号の特報で改めてお知らせします

○ 粉剤または液剤の場合

防除時期	品種	防除日(目安)	使用農薬	散布量/10a(希釈水量/10a)	使用基準(収穫前日数)
1回目	早生	7/23頃	粉剤: ビームモンカットスタークルF 粉剤5DL	4kg/10a	14日前まで
	中生	8/5頃	または 液剤: ビームエイトスタークルソル +モンカットフロアブル	薬量 150ml (希釈水量 150ℓ)	14日前まで
2回目	早生	7/30頃	粉剤: キラップ粉剤 DL	4kg/10a	14日前まで
	中生	8/12頃	または 液剤: キラップフロアブル	薬量 150ml (希釈水量 150ℓ)	14日前まで
3回目	早生	8/7頃	粉剤: トレボン粉剤 DL	4kg/10a	7日前まで
			または 液剤: エクシードフロアブル	薬量 75ml (希釈水量 150ℓ)	7日前まで

- ・風向きと風力、散布量等に注意し周辺の作物や住宅地等への飛散防止に努めましょう。
- ・農薬は基準量を守って使用し、栽培履歴をしっかりと記録しましょう。

○ 粒剤の場合

防除時期	品種	防除日(目安)	使用農薬	散布量	使用基準(収穫前日数)
出穂直前	中生	7/26頃	イモチエースキラップ粒剤	3kg/10a	35日前まで

- ・出穂10日前までに散布する。散布に当たっては、水深3~5cm程度の湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも4~5日間は湛水状態を保ち、7日間は落水しない。
- ・カメムシ類の多発条件では使用を控えるか、粉剤または液剤を使用し、追加防除を行って下さい。
- ※粒剤は残効性が長いので、**残留農薬防止のため収穫前日数を厳守して散布して下さい。**

【随時防除】

紋枯病の発生がみられる場合、穂ばらみ期(出穂10日前頃)に防除しましょう。

使用農薬	散布量	使用基準(収穫前日数)
モンセレン粉剤DL	4kg/10a	21日前まで